

訪問先「不安」35%

利用者から暴言も 県内ケアマネジャー調査

県、安全対策推進へ

回答した会員155人のうち

35%が「怖いと感じる訪問先がある」

事件を受けた緊急アンケート

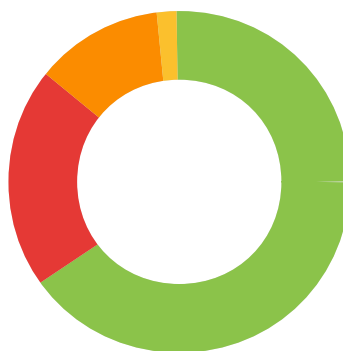
介護支援専門員（ケアマネジャー）らの団体、県介護支援専門員協会（高良清健会長）は、ケアマネの訪問先で要介護者やその家族らの言動に危険を感じたケースについて会員を対象に緊急アンケートを実施した。回答した会員155人のうち35%が「怖いと感じる訪問先がある」と答えたことが分かった。利用者や家族から暴言や暴行を受けた事例も寄せられた。県は複数人での同行訪問への支援など安全対策を進める考えを示している。

（21面に関連）

アンケートは、埼玉県で6月にケアマネジャーが利用者宅で殺害された事件を受けて実施した。ケアマネジャーは原則として月1回以上利用者宅を訪問し、生活状況や介護サービスの提供状況などを確認する「モニタリング」が義務付けられている。

協会によると、人員不足に加え、複数で訪問しても介護報酬上の評価がない

訪問に行くのが怖いと感じる利用者
または家族は何人ぐらいいますか？



- いない：65% (101人)
- 1人：21% (32人)
- 2人：12% (18人)
- 3人以上：2% (4人)

「怖いと感じる訪問先がある」との回答の内訳で、怖いと感じる利用者や家族が「1人いる」は21%（32人）、「2人」が12%（18人）、「3人以上」が2%（4人）だった。「いない」は65%（101人）。

怖いと感じた具体的な内容

「暴言」 55% (36人)

ことなどから、担当者が1人で訪問するケースがほとんどだという。

調査は6月16～20日に実施。緊急実施だったため、全会員1435人のうち少なくとも約300人にウェブフォームを送信し、回答を促した。高良会長は「短期間で実施したアンケートだが、結果は現場の実感とほぼ一致しており、実態を反映している」と受け止めている。

「大声を出された」 15% (10人)

「暴行」 5% (3人)

「物を投げられた」 5% (3人)

※このほかハラスメントを受けたとの回答もあった。

【用語】 ケアマネジャー

正式名は介護支援専門員。要介護者や要支援者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、本人や家族らの相談に応じ、介護サービスの利用計画（ケアプラン）を作成する専門職。利用者の心身の状態や生活状況を把握し、訪問介護やデイサービスなどの事業者、市町村などの関係機関との連絡・調整を行いながら、必要な介護サービスを適切に利用できるように支援する。